

校訓	真善美	令和5年度 学校通信 <b>「荒中だより」</b> 3月 弥生 第34号	発行日	令和6年3月25日
教育目標	自ら考え、行動し、 未来を創造できる生徒の育成 -感謝する心、確かな学力、健やかな心身を育てる-		発行者	伊丹市立荒牧中学校 校長 山崎 佳恵

### 【令和5年度修了式式辞】

本日みなさんは、修了式をもって、各学年の教育課程を修了しました。各クラスでの仲間と担任の先生と過ごした時間も、今日で終わりになりません。今年度、奇跡的に出会い、一緒に過ごした1年間で学んだことや成長したこと、絆を振り返り、互いに「ありがとう。このクラスで良かった。」



と終わることができるでしょうか？ 3学期は、能登半島地震の黙祷から始まり、「当たり前だと思っている日常に改めて感謝し、自分の置かれている立場でしなくてはならないことを一生懸命に取り組んでください。」と話しました。義務教育修了を意味する卒業式では、5年ぶりの全校生徒で、保護者、来賓をお迎えして行いましたが、みんなで創った卒業式は本当に素晴らしかったと思い、荒牧中学校の校長であることを誇りに思っています。30年を超える教師生活で、これほど感動した卒業式はありませんでした。3年生が「3月8日は、記憶に残る卒業式に必ずしてみせます。」と宣言しました。その宣言通り、3年生の意気込みは、在校生を圧倒させました。その強い気持ちに答えるように、TPOを考えながら先輩の門出を最高のものにしようとする在校生の心の変化が、行動となり、卒業式をみんなで創ることにつながりました。何より卒業生の式歌が、在校生、保護者へ対面で歌えたこと、これは会場全体の気持ちがひとつにならなければならないことです。これは、荒牧中学校の生徒の良さです。他の学校にはない、良さだと自信を持って言えます。みなさんは、自分に良いところがあると自信をもって生活していると同時に、人の役に立つことや人のためにできることを自分で考え、進んで行動する良さもあります。荒牧中学校の良さを令和6年度に繋ぎ、更により良く成長していけるよう、新学年を迎える始業式の日には、新年度の目標をしっかりと考え、決めて登校してほしいと思います。良さはどんどん伸ばして、苦手なことはコツコツと小刻みにがんばってください。

最後になりましたが、今日、担任の先生から手渡してもらう通知表には、学年の修了証書が1年間の成績とあわせてはさんでありますので、確認してください。そして、1番確認してほしいことは、担任の先生が書いてくださった1年間の所見です。担任の先生が1年間を振り返って、みなさんひとりひとりの、良いところ、頑張ったこと、成長したこと、可能性について、そして、これから努力してほしいことや頑張してほしいことについて書いてくださっています。校長先生は、全てのクラスの所見をみせてもらいました。どのクラスの担任の先生も、みなさんのことを本当によく見てくださっていて、小さな成長や良いところを見逃さず、ていねいでわかりやすい表現で書いておられ、読んでいる私まで嬉しくなるような文章ばかりでしたので、たのしみにしててください。自ら成長するために必要なことは、目標を定めて、努力を積むことです。素直な心と努力が必要です。担任の先生の所見から得たことを自信にして、更なる成長に向けて素直に努力ができる人であってください。

明日からの春休みの間、交通事故、不注意によるけが、病気など安全面には十分に気をつけて生活を送ってください。4月からは新しい学年、新しい友だちや先生との出会い、新たな「学び」が始まります。みなさんのこれからの「学び」と、「成長」に心から期待しています。4月8日には、進級し、新鮮な気持ちで、希望に満ちた笑顔のみなさんと、会えることをたのしみにしています。



## 「保護者のみなさまへ」

保護者のみなさまのご理解・ご協力のおかげで、1年間を修了することができました。本当にありがとうございました。今年度、お子様の成長したことや頑張ったことについて、ご家庭でも是非お話をしていただき、たくさん認め、ほめてあげてください。本日、PTAより進級祝いのタッチペンを持ち帰ります。今年度も温かい見守り、支援活動にご尽力いただきましたこと、心よりお礼申し上げます。来年度も、どうぞよろしくお願いたします。

